日本の白鳥　Nihon no Hakucho　(23・24):20-21, 2000

米子水鳥公園におけるアメリカコハクチョウの記録

桐原　佳介
米子市米子水鳥公園，683-0855　米子市彦名新田665

アメリカコハクチョウは、アメリカ大陸北部から中部にかけて分布するコハクチョウの一亜種である。日本では、まれな冬鳥として記録があるが、個体数は少ない。成鳥は嘴が黒く、嘴基部に小さな黄色いパッチがあるのが特徴である(Madge & Burn 1998）。

1999年の11月、米子水鳥公園でコハクチョウ約600羽が羽を休ませていたが、このなかにアメリカコハクチョウを確認したので、過去の記録と併せて報告する。

1999年11月17日午前11時30分頃、米子水鳥公園敷地内のつばさ池で、コハクチョウの群れの中にアメリカコハクチョウ１羽が確認された(図1)。

本亜種は、鳥取県米子市において1984年から1987年に各１羽、1988年に２羽、1990年に１羽飛来している。また、1991年に３羽、1992年に２羽、1993年に４羽の雛を連れて飛来した番い（片親はコハクチョウ）が確認された（米子市史編さん協議会　1997）。また、山陰地方では昨年に宍道湖で13年ぶりに３羽確認された。ア

図１．米子水鳥公園で観察されたアメリカコハクチョウ。

Keisuke KIRIHARA. A sight record of *Cygnus columbianus columbianus* from Yonago Water Birds Sanctuary.

メリカコハクチョウは、米子水鳥公園では1995年にオープン以来、初めての記録となる。このことは、当日の夕方のニュースや、翌朝の新聞紙面上でも紹介された。

今回撮影した個体は、嘴基部の黄色斑がやや大きめの個体であったが(図1)、翌々日の19日には黄色斑がより小さい個体が確認され、少なくとも２羽以上のアメリカコハクチョウが飛来していると推測された。12月に入ると、宍道湖でも同様な黄色斑の嘴をもつ個体が確認され、米子水鳥公園（中海）と宍道湖の相互を移動していることが推察された。

コハクチョウの中には、嘴がかなり黒い個体もいて、これらの個体ではコハクチョウとアメリカコハクチョウの境目が微妙である。これらは亜種であるために亜種間交雑が多く確認されており、これらを識別することは難しいようである。

引用文献

米子市史編さん協議会，1997. 新修 米子市史，第六巻，自然編. 米子市，米子. 435pp.

Madge, S. & H. Burn, 1998. Wildfowl. Helm, London. 298pp.